



輝く
恵那人

235 人目



串原柿畑

のあ
中垣 野歩さん (39 歳)

□プロフィール

広島県出身。現在は、なかがき農園でのトマト・イチゴの栽培や、831 企画の運営、たべとるマルシェ運営実行委員会会長と幅広く活躍。人との出会いを大切にしながら農業に関わっている。



▲なかがき農園で行われたトマトの収穫体験

おいしいを届けたい 仲間と一緒に続けられる農業を

今年もトマトがおいしい季節がやってきた。夫と「なかがき農園」を営む中垣野歩さんは、毎日トマトの栽培や配達に精を出している。中垣さんは広島県出身で、高校生の頃は食品加工の仕事を就きたいと考えていた。19歳の時、友人の紹介で串原の柿畑のハム工房ゴールで働き始めたことをきっかけに夫と出会い、結婚。なかがき農園を始めることになった。

なかがき農園では、夏はトマト、冬はイチゴの栽培を行い、完熟のおいしい状態で消費者に届けることにこだわっている。恵那市、中津川市を中心とした地元のスーパーマーケットの産直コーナーや、市内の直売所、飲食店などに出荷し、地産地消を図りながら「顔が見える販売」を心がけている。「自分の手でおいしいを届けたい」と、中垣さんは力強く話す。

農業に関わっていくうちに、中垣さんは一緒に働く同僚がいないことや、悩みや喜びなどを気軽に

話せる人がいないこと、野菜をPRできるような場が少ないことに気づいた。農業者同士で情報や気持ちを共有できる場があるとよいのではと、令和2年、「831企画」を立ち上げた。現在は10軒ほどの農家が参加し、互いに交流しながら、農園を見学したり手伝いをしたりして友好的な関係を築いている。参加農家からは、「お互いの話を聞き、情報交換ができて楽しい」「イベントなどに出席することで新たなつながりが生まれる」という声を聞く。中垣さんは「これからも831企画に参加する農家全員が居やすい環境づくりを心がけたい」と思いを深める。

なかがき農園では、農業体験の受け入れや、大人向けの農園開放などを考えている。「今後は雇用対策も行えるように思う」と今後の展望を話す中垣さん。「仲間と共に頑張れる農業」を目指し、これからも楽しく農業と向き合っていく。



その他の話題もウェブサイトに掲載

News & Topics まちのわだい

6/8

地域の新たな賑わいの場に
阿木川ダム湖ふれあい広場



東野の阿木川ダム湖畔に「阿木川ダム湖ふれあい広場」がオープンし、記念イベントが開催されました。当日はピザや栗菓子などを売るキッチンカーの出店と、阿木川ダム入口広場でのマルシェが開催され、さわやかな新緑の中、親子連れなどが買い物を楽しんでいました。

6/2

「健幸」を考えるきっかけに
健幸フェスタ



まきがね公園一帯で、2024 健幸フェスタ in えなが開催されました。歯科や薬のコーナーが5年ぶりに設けられた他、骨密度や血管年齢、脳年齢の測定コーナーには、順番待ちの列ができ、訪れた約5,000人は楽しみながら健康を見つめ直しました。

6/16

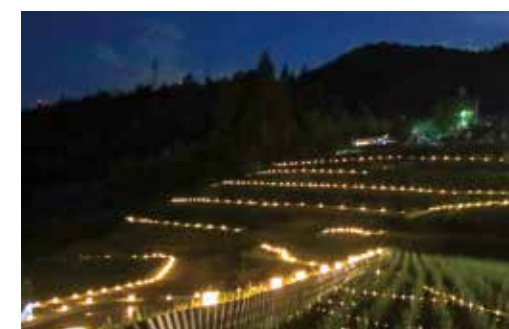
自らの思いを個性豊かに
堂々と発表



恵那文化センターで第20回恵那市少年の主張大会が行われ、学校から推薦を受けた市内中学校の生徒9人が思いを発表しました。最優秀賞には、明智中学校3年生の横光ひかるさんが選ばれ、東濃地区出場者選考委員会を経て、8月2日の岐阜県大会に出場します。

6/8

坂折棚田が1000の明かり
に包まれる



中野方町の坂折棚田で、「田の神様^{ともじび}灯祭り」が5年ぶりに開催されました。あぜに置かれた1,000基のろうそくに次々と明りがともされ、辺りが暗くなると幻想的な風景が浮かび上がりました。来場者は美しい棚田に見入り、写真を撮るなどして楽しんでいました。

6/26

発酵食品ソムリエが講師
大井第二小で食文化の授業



大井第二小学校で発酵食品ソムリエによる「恵那の食文化を学ぶ」授業が行われました。みそなどの試食を行い、子どもたちは「おいしい!」「ごはんと一緒に食べたい」と興味津々の様子。質問コーナーでは絶えず質問が飛び交い、郷土の伝統食への学びを深めました。

6/16

モータースポーツを楽しむ
体験会



恵那笠置山モータパークでモータースポーツ体験会が開催されました。ラリードライバーによるデモ走行や、ラリーカーへの同乗体験の他、ENA CITY オリジナルラリーカーの披露も行われました。来場者はモータースポーツの楽しさを体感していました。